

令和7年度 第2回 学校関係者評価委員会 議事録 概要

1. 開催概要

日時： 令和8年2月17日（木） 13:25～14:35

場所： 5階 カンファレンスルーム

出席者：

学校関係者評価委員

県介護福祉士会 会長

野田学園高校 教頭

山口県看護協会 会長

セントヒル病院 看護部長

社会福祉法人ひとつの会 理事長

看護学科卒業生

介護福祉学科卒業生

教職員出席者

校長

副校長

副校長

事務長

看護学科 学科長

介護福祉学科 学科長

学科長総括

書記

2. 議題および報告事項

令和7年度 学校関係者評価委員会報告

令和7年度 重点項目への取り組みについて

学校自己点検・評価表、評価項目の評価結果

令和7年度 学生アンケート結果について

3. 主な質疑応答・意見交換

(1) 就職・進路状況

- ・看護学科の県外就職は例年20～25%だが、今年度は10%を切っている。
- ・県外就職者は離職率が高い傾向にあり、学校側はホームカミングデーなどを通じて、県内への再就職支援も含めた相談に乗っている。
- ・介護福祉学科は、就学資金の条件もあり、ほぼ全員が県内に就職している。

(2) 教育課程とカリキュラム編成

- ・美容医療系大学との単位互換を視野に入れたカリキュラム編成を検討中だが、専修学校と大学の単位交換には課題もあり、現在は提携の準備段階である。

(3) 学生募集と高校の現状

- ・少子化の影響で高校側も生徒確保に苦勞しており、入試制度の見直しや「未来創造コース」の新設などで対応している。
- ・看護学科の出願者は前年より増えているが、併願者が多いため入学予定者数は例年並みの見込みである。
- ・介護福祉学科は、留学生 16 名、新卒 10 名に加え、養成科の学生を募集中である。

(4) 教育手法（グループワーク）への助言

- ・学生アンケートでグループワークへの否定的な意見があることに対し、委員から「今の若者は議論の仕方がわからないため、やり方（オリエンテーション）から教える必要がある」との指摘があった。
- ・学校側も、分業（パーツ作り）で終わらず、互いに教え合い、役割（司会・書記等）を明確にすることで、専門性の理解や仲間作りにつなげる工夫をしている。

(5) 学生指導とアンケート結果の解釈

- ・「指導に不公平感がある」という学生の不満に対し、教員は公開の場での叱責を避け、個別に呼んで注意を促す形をとっているが、それが周囲には指導していないように見える場合がある。
- ・アンケートの数値だけでなく、教員と学生の距離が近いからこそ出る意見として真摯に受け止めつつ、将来を見据えた厳しい指導の重要性も共有された。

(6) 職業観の育成と社会の評価

- ・コロナ禍以降、医療・福祉職の大変さばかりが強調され、保護者が子供を通わせたくない傾向がある。
- ・小・中・高校の段階から医療・福祉現場を正しく知る機会（授業の義務付け等）を設け、社会を支える不可欠な仕事としての魅力を伝える必要がある。

4. 承認および次回予定

令和 7 年度の重点項目取り組み状況および自己点検・評価結果、学生アンケート結果は全員一致で了承された。

次回： 令和 8 年度 第 1 回委員会は 10 月開催予定。